

キャラクター名
終 黒矢

プレイヤー名

シンドローム	パロール ブラックドッグ		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	UGNチルドレン
	オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	素体	衝動	嫌悪	初期侵食率	31	%
出自	複数の兄弟姉妹がいる	経験	心の壁	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	2	0	0			2	行動値	11
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	11
精神	3	1	3			7	戦闘移動	16
社会	1	0	0			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	9		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:頭なでなで	2		知識:レネゲイド	1		情報:UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:噂話	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				
バードシュート	RC	12r+9		26		1+2+3+4。C値8。
ブラック・バードシュート(100↑)	RC	16r+9		30		1+2+3+4。C値7。
サンダー・バードシュート(160↑)	RC	19r+9		34		1+2+3+4。C値7。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:噂好きの友人	
ストレングフェイス	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
希望の星	P	N		
父上:川島大河	P 尊敬	N 脅威		
兄弟姉妹	P 幸福感	N 恐怖		
ヤタガラス	P 慈愛	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ダークマター	3	2	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果: 判定ダイス+LV個。								
コンセントレイト:パロール	2	2	メジャー	—	—	—	—	
効果: C値-(LV) ※最大値7								
黒の鉄槌	5	1	メジャー	視界	—	対決	—	
効果: <技能:RC>攻撃力+(LV×2+2)。同エンゲージ不可。								
雷の槍	5	2	メジャー	視界	—	対決	—	
効果: <技能:RC>攻撃力+(LV×2+4)。判定ダイス-1。同エンゲージ不可。								
雷の剣	3	2	メジャー	至近	—	対決	—	
効果: <技能:RC>攻撃力+5。同エンゲージ可。1シーンLV回。								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 判定を強制失敗させる。1シナリオ1回。								
ディメンジョンゲート	1	3	メジャー	至近	効果	自動	—	
効果: 撤退だ!								
電子使い	1	—	メジャー	至近	自身	自動	—	
効果: さ〜て、どんな情報があるのかな? (<RC>による判定あり)								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「父さんのためになるなら、俺は何だってやる!」
「ただいまー!無事帰ってこれたぜー!」
「俺の自慢の“バードシュート”は、父さんのお墨付きでもあるんだぜ...っ!」

終黒矢は、かつては平凡な家に生まれた普通の人間____だった。
黒矢が幼い頃のある日、その日は家族と日用品を調達するために近所の大型ショッピングモールにて買い物を楽しんでいた。買い物を終えて帰宅している最中、大通りから一瞬にして人気が消えた。それはUGNのマッドサイエンティストたちが仕組んだ計画であり、黒矢たちは家族もろともUGNの支部に実験サンプルとして運ばれた。収容されるときに両親と兄弟たちは別々に隔離されたため、両親がどうなったのかは黒矢を始め他の兄弟姉妹には詳しいことは知らされていない。ただ、黒矢たちの両親は実験の過程で「死亡」したとだけ知らされた。そこで黒矢は地獄のような訓練と実験の毎日を経過することとなった。

そこで過酷な実験を過ごしていると、ある日支部にけたたましい警報音が鳴り響いた。ただの侵入者らしいのだがその侵入者は恐ろしく素早く、強いとも言われていた。対象は瞬間に支部のエージェント数人を倒し、重要な研究資料が保管されている最奥部までたどり着いた。対象の目的がその研究資料だったため、研究者たちはそれを奪取されまいとして黒矢たちを駆り出した。そこで初めて黒矢たちは対象の姿を視認した。180はあるかというような巨大な体躯、そこから放たれる圧倒的な威圧感、目深く被った軍帽の奥から覗く大型肉食獣の如き鋭い視線、そして滲み出る殺気。これまで黒矢たちが対処してきた人間とは明らかに規格外の人物だった。対象が一步前進する。その瞬間黒矢たちは研究員をその場に残して全員重力場に吸い込まれた。そこで彼らの記憶は一旦途絶えた。

次に目が覚めると、真っ白な天井に上等なベッドで寝かされていた。そこには先ほど黒矢たちと相対したエージェントが座っていた。彼は語った。「最近黒矢たちが所属している支部では年端もいかないう少年少女たちに非合法な人体実験を繰り返している」と。そして「きみたちが置かれていた状況については、既に調べがついています」「はっきり言います。君たちの侵食率はジャム火寸前の状態だ。一刻も早くあの劣悪な環境から解放し、諸君の肉体的、精神的な安全を確保する必要があった」「私はきみたちをそれぞれ一人の人間として扱おう。温かいご飯、心地いい寝床、共に語らえる憩いの場所もこちらにはある。それくらいしかここにはないが、必要最低限のものは揃っているし、あまり不自由はしないはずだ」とも語った。「...ともかく、ようこそ我が家へ。私たちは君たちを歓迎する」これが川島大河____現在の父親との出会いだった。